

診療所便り

～総合病院との連携について～



しばた医院 院長
柴田安宅

当院は御池堀町のオフィス街に位置しているため、患者さまの多くがサラリーマンやOLの方です。仕事上のストレスや不規則な生活からくるさまざまな病状の相談に応じ、どんな疾患にでもできるだけ対応できるように、生活習慣病を中心に総合診療科、いわゆる

“なんでも屋”として日々診療を行っています。なかでも糖尿病の患者さま（境界型糖尿病を含め）には細かい生活指導や栄養士による栄養指導に力を入れています。

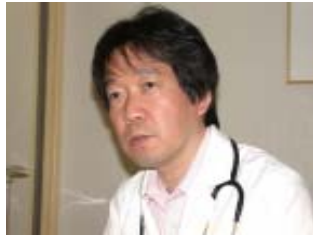
武田病院グループで約20年間内科医として勤めていた経験を生かし、さらに詳しい検査や専門的な治療が必要な場合に、循環器科や消化器科、神経内科などの専門科を紹介しています。武田病院は、精密検査や入院の依頼にも手際よく受け入れていただけますし、検査結果やその後の病状経過など、担当の先生からFAXや手紙で詳しい報告があり、安心して患者さまをお願いできます。

患者さまが入院された時は、事前に連絡し、できるだけ主治医の都合に合わせて病院を訪問します。患者さまを見舞い、主治医から患者さまの病状の説明を受けますが、懇切丁寧にさせていただいております。たまたま、まだ入院中と思っている患者さまが、いつの間にか退院して、突然当院を受診されても情報もなく、困惑することがあります。こんな時は早めに、その患者さまの退院時期、アフターフォローの注意点など患者さまの情報を教えていただけたらありがたいと思います。



〒604-8106
京都市中京区御池通堀町南西角
電話 075-241-3611
診療科目 内・循・呼・消・リハ

玉垣内科医院 院長
玉垣俊幸



24時間診療を心がけて、往診や時間外でも対応するようにしています。患者さまは、生活習慣病の方が多いのですが、風邪など体の調子が悪いなどと思ったら、気軽に相談に来られます。院内には、内視鏡検査や腹部、心臓超音波検査などの設備をそろえていますので、ある程度の検査はできますが、緊急の肺炎や心筋梗塞など詳しい検査や入院が必要な時には、総合病院にお願いします。その場合、患者さまの希望と症状によって、紹介する病院を選ぶようにしていますが、どの総合病院も検査結果や入院中の様子、状態などを報告していただいております。連絡がない場合は、私の方から必要な情報を得るようにしています。

子供からお年寄りまで幅広く患者さまを診ていますと、皮膚疾患や泌尿器など専門外についてよく質問されます。「わかりません」と言ってしまうかもしれませんが、少しでも患者さまのお役に立ちたいという気持ちから、相談に応じています。とりあえず初期対応ができるように、が私のモットーであり、かかりつけ医の役割だと思います。そのために総合病院の講習会、勉強会など積極的に出席し、最新の情報を患者さまに伝えるようにしています。新しい検査方法など診察に反映できますので、さまざまな科の勉強会を数多く開催されることを期待します。

さらに言えば、かかりつけ医が患者さまに24時間対応をするように、病院にも医院からの依頼に24時間対応していただけたらと思います。その点、武田病院は、24時間、どんな時でも受け入れていただけるので、信頼しております。



〒604-8053
京都市中京区駄屋町通四条上ル榎屋町511
電話 075-253-5560
駐車場あり
診療科目 内・消

地域医療連携室から



平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。諸先生からご紹介いただいた患者さまが来院された折には、外来フロアマネジャーとして諸手続きをはじめ、各診察室、検査室などへのご案内をさせていただきます。患者さまが不安や戸惑いを感じることなく受診・受検していただくことができるよう、また、患者さまの待ち時間を短縮し、ご負担の軽減を図るなど万全の体制をとっております。ご紹介いただきました患者さまににつきましては、精査加療後、直ちに紹介元である先生方にご報告させていただきます。また、検査予約センターは「検査のオーダーリングシステム」として、先生方のご要望の検査を「予約センター」にお電話の上ご予約をいただき、検査成績の結果を当院の担当医よりご報告させていただきます。先生方の検査機関としてお気軽にご利用いただけますよう、ここに改めてご案内を申し上げます。

なお、所定の専門の紹介状（診療情報提供書）と検査依頼票をご用意いたしておりますので地域医療連携室にご連絡ください。

諸先生方に、より一層「身近で緊密な医療ネットワーク」としてご利用いただくことができますよう、医療連携の推進とサービスの向上に、ますます努力を重ねていく所存でございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

医療法人 財団 康生会 武田病院
(連絡先) 地域医療連携室
TEL 075(361)1352 (直) / FAX 075(361)1268

検査予約センター
TEL 075(351)1132 (直) / FAX 075(361)1268

URL <http://www.takedahp.or.jp/> 室長：松山 則彦



たけだメディカルニュース

Vol.3 発行日 平成15年6月1日

発行 武田病院グループ 京都市下京区塩小路通西洞院東入ル
発行人 武田 隆久 TEL 075-361-1351 (代)

医療法人財団康生会 武田病院 消化器特集

消化器疾患トピックス



京都府立医科大学
第一内科 教授
吉川 敏一

ピロリ除菌で逆流性食道炎

胃炎や胃潰瘍にどうしてかかり、繰り返すのかわからなかったのですが、ヘリコバクターピロリという細菌

によって引き起こされていたことが明らかにされたのは比較的最近のことです。ただ、すべてピロリ菌が起因

しているだけでなく、ストレスなども関係していることも近年わかってきました。大半の潰瘍が除菌によって再発しないことだけは確かで、再発予防のためにヘリコバクターピロリを除菌することが大切なことは言うまでもありません。

ピロリ菌はアンモニアを出して胃酸をアルカリ中和して胃液から自分を守っていたのですが、胃癌予防のため多くの保菌者が除菌をすることから、除菌によって胃酸が中和されず逆流性食道炎が増えてきたのもトピックスです。また食生活の欧米化による肥満体も増え、胃の圧迫による逆流性食道炎（胸やけ）も増えています。これらはPPI（プロトン・ポンプ・インヒビター）という強力な酸分泌を抑制する薬剤が効果的なのですが、それを飲んでいる間は調子がいいのですが、止めると増悪することもあります。

NUD（非潰瘍性ディスペプシア）という、潰瘍ではないが胃部不快感を伴う病気があります。酸を抑える薬剤や消化管運動改善薬、粘膜防御薬などで良くなることから、胃液をはじめさまざまな原因が関係して起こるのでは、と考えられています。不定愁訴と考えられていたのは、実は病気であることがわかってきました。以上は消化器上部疾患です。

下部疾患としては、潰瘍性大腸炎やクローン病が、欧米だけでなく日本人にも増えており、難病に指定されています。クローン病とは絶食が主体的治療でしたが、ごく最近になって抗サイトカイン療法（抗TNF抗体による治療）を行っています。しかし、炎症や熱発などさまざまな病変のシグナルも抑えてしまうため、他の感染にかかっても見逃してしまうこともあり注意が必要です。

このように消化管の治療法は徐々に移り変わり、副作用や注意しなければならないことも移り変わっているのが現状です。このため開業医の先生方にも、絶えずこれらの治療法には効果がある反面、副作用などデメリットがあることも知っていただいた上で、患者さまに対するインフォームドコンセントや治療に当たっていただきたいと思っております。

肝臓（B、C型肝炎）に関してはインターフェロンや抗ウイルス薬で徐々に制圧の方向に向っています。抗ウイルス療法ががんの発症にも効果があることがわかってきました。

さらに内視鏡下手術など医療機器の開発に伴って、開腹手術をしなくても済むようになったのは、消化器疾患患者にとっては朗報でしょう。

府立医大で抗酸化研究

京都府立医科大学のわれわれの研究室では、潰瘍性大腸炎で白血球を取り除く療法、抗サイトカイン療法をはじめ、最近の研究テーマとして活性酸素によってがんや成人病が起こることから、予防のために活性酸素を抑える食生活の指導などを行っています。抗酸化食品の選択、抗酸化ビタミンの摂取などがそれです。アルコールが原因でなく脂肪肝から肝硬変にまで進行する今話題のNASH（非アルコール性脂肪肝）はビタミンEをはじめとした抗酸化剤によって改善することが認められはじめています。

INDEX

P.1 消化器疾患トピックス
京都府立医科大学 第一内科教授
吉川敏一

P.2-3
康生会 武田病院 消化器センター
所長 竹村俊樹
部長 高橋周史
医長 朴義男

P.4 診療所便り
しばた医院 院長 柴田安宅
玉垣内科医院 院長 玉垣俊幸
地域医療連携室から
室長 松山則彦



康生会武田病院
消化器センター 所長
竹村 俊樹
たけむら・としき

1981年 京都府立医科大学卒業。同年 同大学第一内科入局。85年 同大学大学院修了。医学博士取得。89年 米国ルイジアナ州立大学医学センター留学。94年 武田病院消化器内科勤務。95年 武田病院消化器内科部長。2000年より現職。

専門領域：消化器内視鏡診断学および治療学。京都府立医科大学客員講師。日本消化器内視鏡学会専門医。日本東洋医学会専門医。日本消化器病学会専門医。日本内科学会認定医など

センターの取り組み
消化器センターでは常勤医師5名が外科や放射線科など関連の診療科と密接なコンタクトを取りながら、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・直腸の全消化管、肝臓、胆・膵系、腹膜などの臓器の多様な疾患に対応しています。平成14年度の実績は、上部消化管内視鏡検査(2789件)、大腸内視鏡検査(779件)、内視鏡的胆膵管造影検査(118件)、超音波内視鏡検査(47件)です。潰瘍出血に対する内視鏡的止血術、内視鏡的ポリプ切除術、内視鏡的乳頭切開および胆石除去術、早期胃癌や大腸がんの内視鏡的粘膜切除術など

センターの取り組み
京都駅前前の急性期病院である当院の特徴は、すべての分野で急性疾患が多いことで、救急疾患への迅速な対応が特に重要と考えております。急性腹症など急を要する病態に対して、血液検査のみならず、上述の高性能な画像診断が時間を問わず行える体制にあり、早期診断・早期治療が可能となっております。
消化器系の臓器にはがんなどの悪性腫瘍が多く発生します。悪性疾患の診療に当たることが多いのも当センターの特徴の一つです。急性疾患と異なり悪性疾患の患者さまとは長い付き合いになり、精神的な支えがより重要となってきます。また、ますますストレスの増加する世情を反映して血液検査や画像検査で異常が現れない機能的疾患も増加しています。Non Ulcer Dyspepsia (NUD) 過

病診連携が重要なC型肝炎診療
輸血管理の向上によりC型肝炎新規患者の発生は激減していますが、C型肝炎ウイルス(HCV)の持続感染者(キャリア)は二〇〇万人とも三〇〇万人とも言われ、結核に次ぐ第二の国民病と言われています。無症状のうちに慢性肝炎から肝硬変・肝細胞がんに至る恐ろしい病気が、ウイルスの駆除ができれば肝硬変や肝細胞がんの発症を確実に防ぐことが可能です。たとえウイルスを駆除できない場合でもGOT・GPTを正常に保つことで肝細胞がんは同じくらい少なくできることもわかっています。従来のインターフェロン単独治療ではウイルスを駆除できなかった症例でも、リパビリン・インターフェロン併用療法で駆除できる場合がありますし、最近インターフェロンの長期投与も保険適応になりC型肝炎に対する治療の選択肢は確実に増えています。

当センターではC型肝炎の診療において病診連携が特に重要と考えています。究極の治療目標は肝細胞がんの発生を抑制することですが、患者さまの年齢や肝予備能、ウイルスの血清型やウイルス量から治療方針が決まってくる。治療方針の決定、肝炎沈静化のための日常的な治療、計画的な肝細胞がんのスクリーニング、食道・胃静



食道静脈瘤

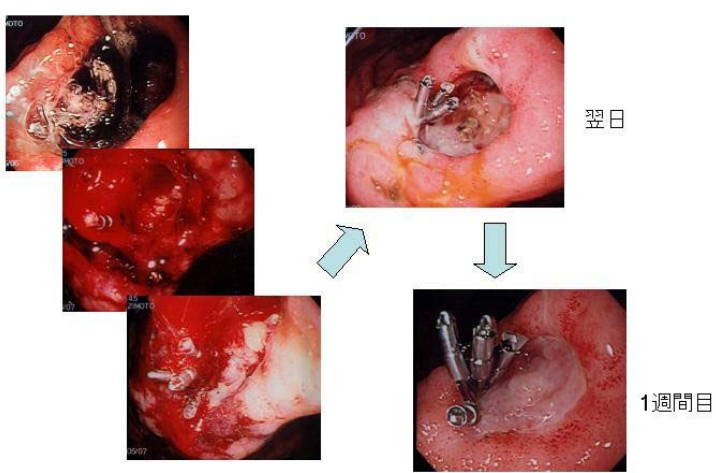


胃噴門部静脈瘤



肝細胞がんの発生(矢印)

消化器科
康生会 武田病院
消化器センター



翌日
1週間目
凝血塊を除去すると、露出血管より拍動性出血を来したため、クリップ止血

視鏡的治療にも実績があります。各種の画像診断機器に関しては、3D対応CTスキャン、MRI、デジタル画像システム、同位元素を用いた各種シンチグラフィといった大学病院に匹敵する



康生会武田病院
消化器センター 医長
朴 義男
ぼく・よしお

1989年 京都府立医科大学卒業。同年 同大学付属病院第一内科学教室入局。舞鶴赤十字病院出向後、93年京都府立医科大学大学院入学。97年 同大学院修了後、彦根中央病院にて5年間在職。2002年4月より現職。日本消化器学会認定医。

消化管出血

当院では、救急患者が多いため、消化管出血症例も多く、年間当たり上部消化管出血が100例以上、下部消化管出血が数10例あります。このため、オンコール制により24時間体制で緊急内視鏡検査を行えるようにしています。

なかでも消化性潰瘍出血例が最も多く、年間数10例あり、その多くは内視鏡的止血術を要しています。従来(1993年~1997年)は、再出血例や止血不能で緊急手術を要する例がそれぞれ、18.6%、8.6%もありましたが、クリップ法その他の内視鏡的止血術の確立により、1997年以降の再出血例は3%程度、手術症例は2%を切っています。その他にも静脈瘤出血や悪性腫瘍からの出血にも対応しています。ただし、内科治療に固執することなく、外科や放射線科医との連携を緊密に行い、外科的処置やInterventionも視野に入れ、症例ごとに最良の対応が選択できるような体制をとっています。

その他

消化管出血以外にも、閉塞性黄疸に対する内視鏡的あるいは経皮的な各種減黄術、総胆管結石に対する内視鏡的切石術、急性胆嚢炎や肝膿瘍に対する経皮的ドレナージ術、消化管異物に対する内視鏡的摘除術、その他多くの緊急処置を随時行っています。これらの処置においても、当院では常に外科や放射線科医がバックアップ体制をとってくれているため安心して行うことができます。

もちろん、急性期疾患のみならず、がんに対する内視鏡治療や各種化学療法、潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法をはじめとする各種治療、経口摂取不能患者に対するPEG(内視鏡的胃瘻造設術)等も積極的に行っています。これら以外の治療も含めて、私たちは常にインフォームドコンセントを重視した対応を心がけています。

武田病院 消化器センター 診療表

月	午前		夜診	
	火	水	木	金
火	高橋	平田	竹村	河田
水	竹村	河田	朴	平田 / 河田 (隔週)
木	高橋	朴	平田 / 河田 (隔週)	
金	高橋	平田	竹村	河田
土	高橋	平田	竹村	河田

・・・予約診療となっております。
受付時間(午前診)AM8:30~PM12:30
(夜診)PM4:30~8:30まで

脈瘤などの合併症の管理など積極的に診療所と病院が連携し役割分担すること、より患者さまに適したコンプライアンスの高い診療が可能であると確信しています。もちろん、肝細胞がんに対する肝動脈化学塞栓術(TAE)、経皮的エタール注入(PEIT)やラジオ波治療(RFA)、静脈瘤に対する内視鏡的治療などにも対応しています。